

1. アンケート概要	2頁
(1) 目的		
(2) 対象者		
(3) 実施時期・形態		
(4) アンケート内容		
(5) 分析機関		
2. 分析の総括	2頁
3. アンケートの結果と分析	3頁
(1) 鳴門教育大学を卒業・修了した教員の全体的な印象		
(2) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力		
(3) 鳴門教育大学の教育内容について、良いと思われること、改善や要望 点の分析		
(4) 自由記述		
※この報告書は、カラーユニバーサルデザインに配慮しています。		

概要

(1)目的	本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。																																
(2)対象者	<p>徳島県内の教育委員会教育長、徳島県内公立幼・小・中・中等教育・高・特別支援学校長：対象者399人、回答者286人（回収率71.6%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>回答率</th> <th>回答者数</th> <th>無回答者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援学校長</td> <td>67%</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>高等学校長</td> <td>68%</td> <td>19</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>中等教育学校長</td> <td>100%</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学校長</td> <td>75%</td> <td>60</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>小学校長</td> <td>85%</td> <td>140</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>幼稚園長</td> <td>48%</td> <td>44</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>教育委員会教育長</td> <td>68%</td> <td>17</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	回答率	回答者数	無回答者数	特別支援学校長	67%	6	1	高等学校長	68%	19	1	中等教育学校長	100%	1	0	中学校長	75%	60	20	小学校長	85%	140	25	幼稚園長	48%	44	46	教育委員会教育長	68%	17	1
対象者	回答率	回答者数	無回答者数																														
特別支援学校長	67%	6	1																														
高等学校長	68%	19	1																														
中等教育学校長	100%	1	0																														
中学校長	75%	60	20																														
小学校長	85%	140	25																														
幼稚園長	48%	44	46																														
教育委員会教育長	68%	17	1																														
(3)実施時期・形態	令和3年10月～11月の間に、対象者へWEBによるアンケートを実施した。																																
(4)アンケート内容	<p>①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について、4件法で回答を求めた。</p> <p>②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について、4件法で回答を求めた。</p> <p>③本学で伸ばして欲しい能力について、27項目を設定し、3件法で回答を求めた。</p> <p>④本学の教育について、自由記述で回答を求めた。</p>																																
(5)分析機関	学部教務委員会及び大学院教務委員会が設置した「教育等に関するアンケート分析専門部会」																																

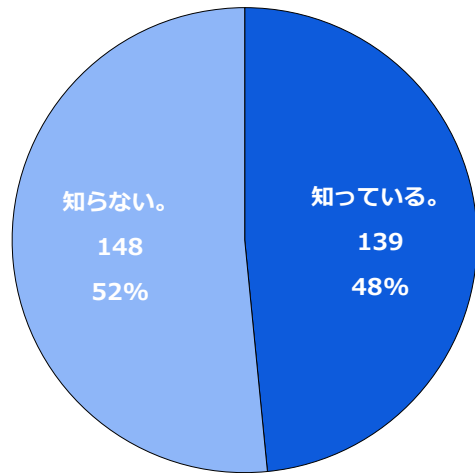
分析の総括

総括	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、当たり前のことが当たり前でない状況が続いている。その影響もあり、今回、アンケートに協力いただいた教育委員会教育長、学校園の校長・園長の皆様には、ご多忙な折、調査に協力いただき、感謝申し上げます。本学の教育効果について、内部で評価するだけでなく、外部の意見を踏まえ、真摯に見直していくことが求められている。今回の結果からも、本学として、取り組みを評価いただいた点、改善を図らないといけない点が数多く明らかになった。</p> <p>本学は、学部が1学年100名、大学院1学年300名の小規模な単科大学である。徳島県に教師として採用されるのは、学部生、大学院生併せて50名程度で推移している。徳島県で採用される人数が全ての校種を合わせて200名程度であることを考えると、その四分の一を占めていることになる。ただ、その数は限られているし、限られた本学出身の卒業生・修了生の姿から回答することには戸惑いを感じた方も多いと推察される。自由記述にも、徳島県の国立の唯一の教員養成系大学・学部として、徳島の教育をさらに魅力的にするより多くの教員養成を希望する声の大きさに励まされるとともに、そこに応えきれない現状に忸怩たる思いを持たざるを得ない。少子高齢化が進む状況で、学部の定員を増加するのは厳しいところがあるが、定員に余裕のある大学院をさらに充実し、徳島県の教員としてさらに養成していくことが重要であろう。</p> <p>アンケート結果を見ると、本学の学部卒業生、大学院終了者に対して、一定の評価を得られており（2.（1）（2））、教育の効果を果たせていると捉えられる一方、生徒指導力、保護者対応力、それらの実践を支えるコミュニケーション力、レジリエンスなどに改善を求められていることがうかがえた。これらの力は、大学内の教育だけで伸ばせるものではなく、学校現場での実習、ボランティア経験などが極めて重要となる。支援が必要な児童生徒に対する支援員、産休・育休などの代替教員として、本学学生に期待する声が高いことから、学校、大学双方にとってWin-Winとなる連携をさらに進めていく必要がある。</p> <p>2030年をめどに、学校教育は大きく変わることが求められている。そこでの教師の役割も大きく変化することが予想される。しかし、学校現場の管理職が教員養成に求めているものを見ると、GIGAスクール構想に対応できる、高いICT活用能力を持つことよりも、高いコミュニケーション力、粘り強く取り組める力といった、教師としての不易の部分、改めて求められていることがわかる。これは、本学卒業生、修了生に対する評価結果ともリンクしている。</p> <p>本学としても、不易の部分としての教員養成の改善を図りつつも、激変する教育の変化を先取りできる教員の養成も、本学において喫緊に取り組みないといけない課題である。ただ、どのような教師を育成していくかについて、デマンドサイドの学校現場と常に対話し、徳島の教育をよりよくしていくための教員養成を進めることを忘れてはならない。</p>
----	--

1. 鳴門教育大学を卒業・修了した教員の全体的な印象

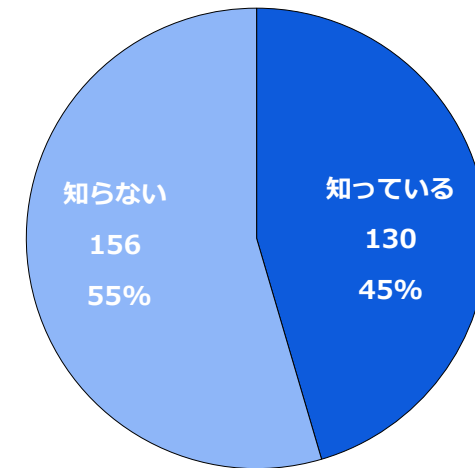
(1) 「学部」を卒業した教員の全体的な印象

Q2-1 鳴門教育大学の学部を過去5年以内に卒業した教員をご存じですか。
(実習生・鳴門教育大学大学院修了者を除く。)



(2) 「大学院」を修了した教員の全体的な印象

Q5 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に修了した教員をご存じですか。



分析 調査対象者のほぼ半数(48%)が本学学部を卒業した教員を「知っている」と回答しており、この割合は前回2017(平成29)年度調査の結果(49%)とほぼ同程度であった。このことから、徳島県内における本学学部卒業生の認知度およびプレゼンスについては、2017~2021年度の4年間にかけてほぼ同水準で維持されていると考えられる。

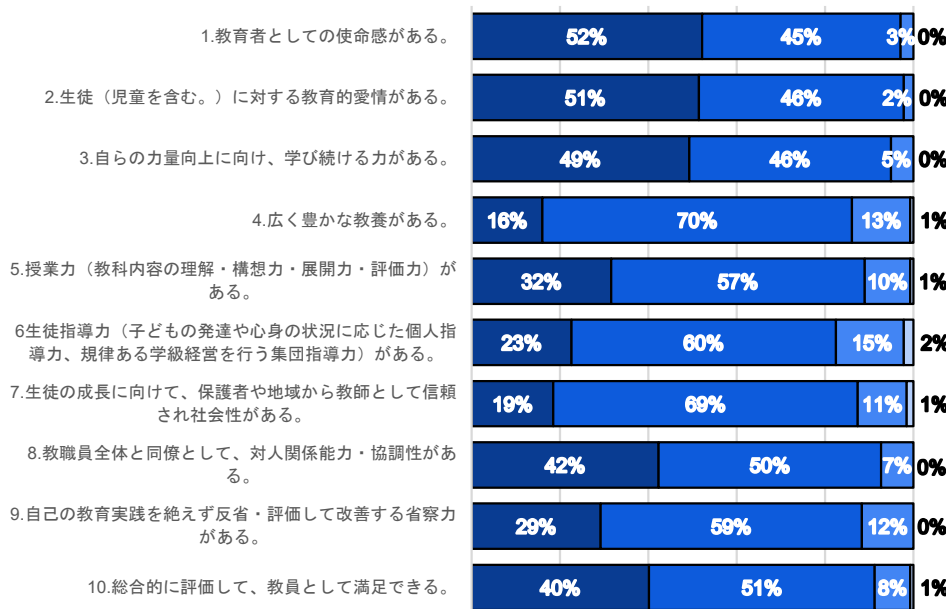
調査対象者のおおよそ半数(45%)が本学大学院を卒業した教員を「知っている」と回答している。この割合は、前回2017(平成29)年度調査の結果(60%)から一定程度減少しており、徳島県内における本学大学院卒業生の認知度およびプレゼンスが下がっていると捉えられる。この認知度およびプレゼンスを上げるために、本学から徳島県の教育界に対してなんらかの働きかけをすべきである。

1. 鳴門教育大学を卒業・修了した教員の全体的な印象

(1) 「学部」を卒業した教員の全体的な印象

Q4 鳴門教育大学の学部を過去5年以内に卒業した教員の全体的な印象について

0% 20% 40% 60% 80% 100%

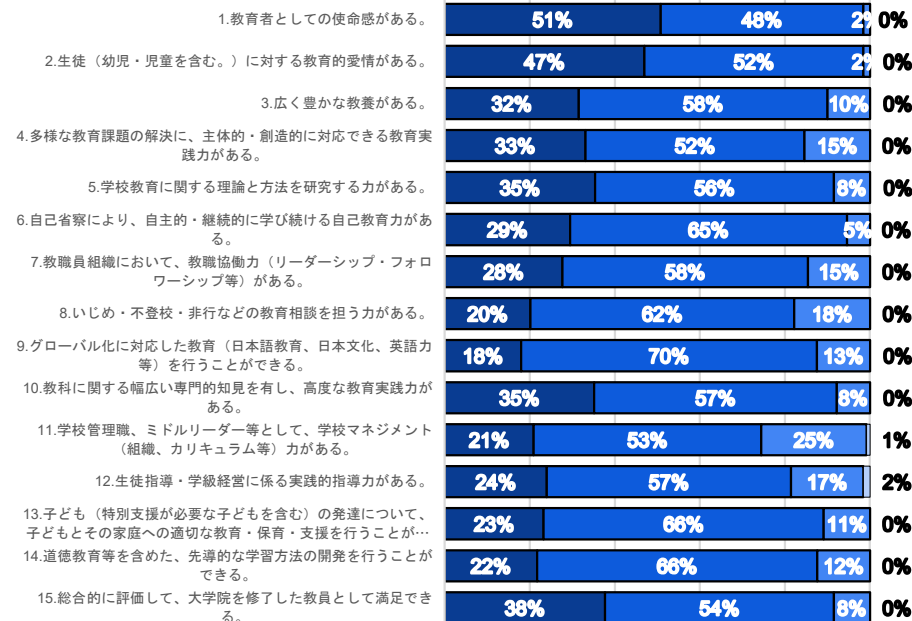


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそうは思わない □ そうは思わない

(2) 「大学院」を修了した教員の全体的な印象

Q6 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に修了した教員の全体的な印象について、お教えてください。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそうは思わない □ そうは思わない

分析

【肯定的回答が多い項目】
全10項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせた肯定的回答の割合は、90%前後であり、特に「1. 教育者としての使命感」「2. 生徒に対する教育的愛情」「3. 学び続ける力」では95%以上に達した。

【肯定的回答が少ない項目】
一方、「4. 広く豊かな教養」「6. 生徒指導力」「7. 生徒の成長に向けた保護者や地域からの教師としての信頼性・社会性」に関しては、肯定的回答の割合が85%程度と比較的低かった。これらの結果は前回2017(平成29)年度調査でも見られた傾向である。

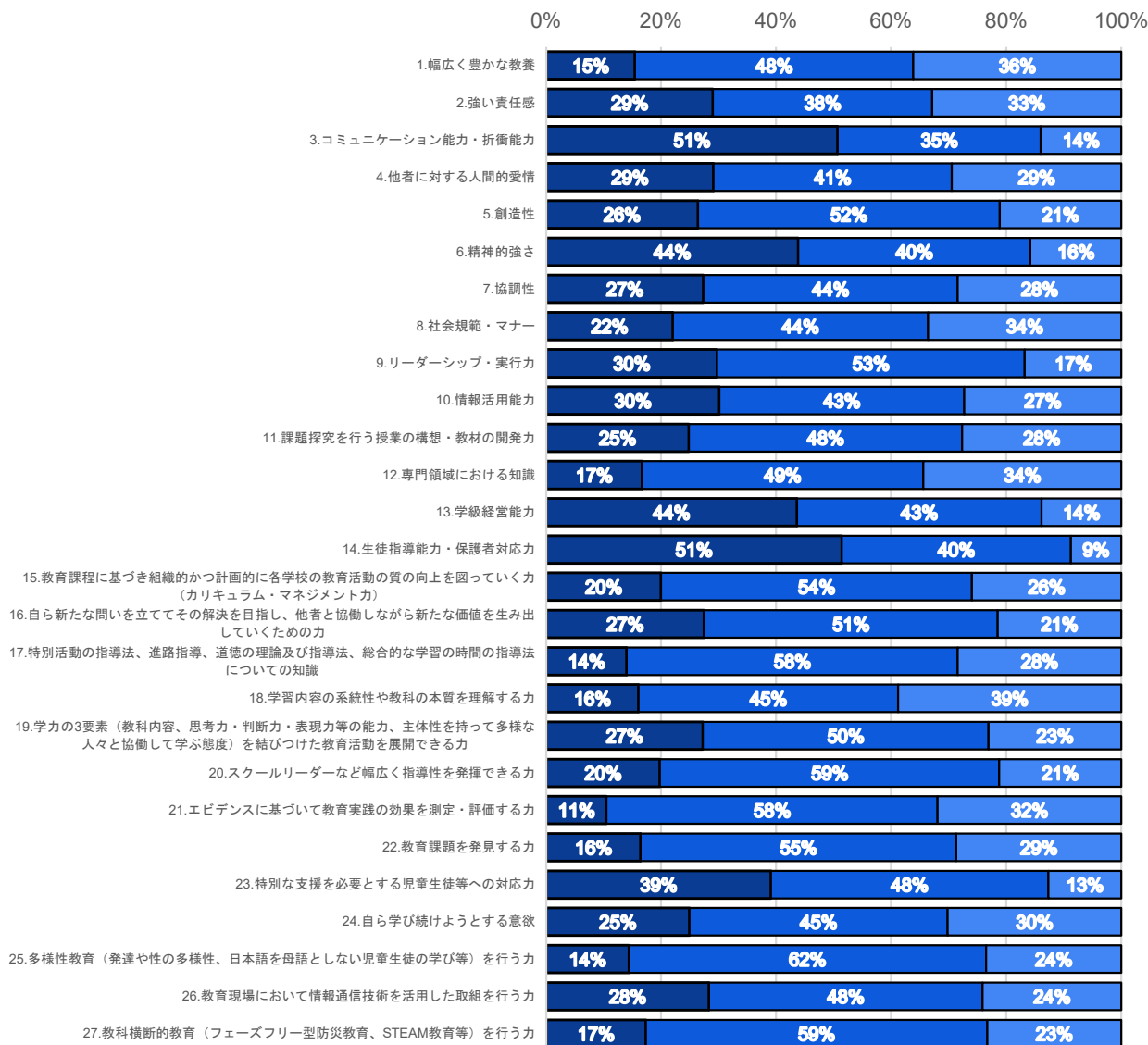
以上のことから、徳島県内の教育長・校長等は、前回から引き続き、本学学部卒の教員に対して好ましい印象を抱いていると言える。特に、教育者としての使命感、や子どもに対する教育的愛情、学び続ける力が認められていることから、本学の教育理念・目標が継続して達成できていることが示唆される。

【肯定的回答が多い項目】
「総合的に評価して、大学院を修了した教員として満足できる」は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせた肯定的回答肯定的回答が92%に達し、高い評価を得ている。特に、「自己省察により、自主的・継続的に学び続けることのできる自己教育力がある。」と「生徒に対する教育的愛情がある」は肯定的回答が95%を超えており、本学の修了生が真摯に教職に取り組んでいる姿がうかがえる。

【肯定的回答が少ない項目】
他方で、「学校管理職、ミドルリーダーとして、学校マネジメント（組織、カリキュラム）」は、否定的な回答が25%に達している。この割合は、前回2017(平成29)年度調査の結果(8%)から大幅に増加している。本学修了生はそれぞれの勤務校でリーダー的役割を期待されているが、必ずしも教育長や校長の期待に応えられていないことが推察され、今後の改善の余地が残されている。

2. 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力

Q7.今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力について



■重点的に伸ばして欲しい ■もう少し伸ばして欲しい ■現状の教育レベルでよい

分析

全ての項目で6割以上が「重点的に伸ばしてほしい」「もう少し伸ばしてほしい」と回答したことから、本学の教育への期待が多岐にわたっていることがうかがわれる。

【特に「重点的に伸ばしてほしい」】
 その中でも、「重点的に伸ばしてほしい」との回答が
 <半数以上>

「3. コミュニケーション能力・折衝能力」(51%)
 「14. 生徒指導能力・保護者対応力」(51%)
 <1/3以上>
 「6. 精神的強さ」(44%)
 「13. 学級経営能力」(44%)
 「23. 特別な支援を必要とする児童生徒等への対応力」(39%)
 これらは、「もう少し伸ばしてほしい」という回答と合わせても非常に高く期待されている項目であった(いずれも84%以上)。

特に、学習指導というよりも生徒指導や学級経営、保護者対応といった人と関わる力について伸ばしてほしいという期待が強いことがわかる。また、学校現場で休職する教員の存在、新たな教育課題の増加などから、精神的な強さのある教員が求められていることもわかる。ストレスが多いという教育現場の現状が変わることが第一義ではあるが、ストレスコーピングについて学ぶ場を充実させるなどの対応は考えられるだろう。

【1/3以上が「現在の教育レベルでよい」】
 「18.学習内容の系統性や教科の本質を理解する力」(39%)
 「1. 幅広く豊かな教養」(36%)
 「7. 協調性」(34%)
 「8. 社会規範・マナー」(34%)
 「12. 専門領域における知識」(34%)
 「2. 強い責任感」(33%)

ただし、「2. 強い責任感」と「7. 協調性」は、「重点的に伸ばしてほしい」との回答がそれぞれ29%、27%と他の4項目(15~22%)に比べて高かった。

これらは、今までの教育のなかで育っていると評価されている項目であると考えられる。特に、本学が開発し活用してきた「教員としての資質・能力スタンダード」(いわゆる「鳴門スタンダード」)は、授業力に関する項目が多く、大学として授業実践力の育成に注力してきた。「18.学習内容の系統性や教科の本質を理解する力」「12. 専門領域における知識」での評定平均値の高さは、その成果であると考えられる。

なお、「鳴門スタンダード」は、上述した「重点的に伸ばしてほしい」とされた項目に対応できるよう現在改定に向けての検討が進められている。また、現代的な教育に対応できる教員の育成を目指してカリキュラムの改善も進められている。これらにより、本学の教育に寄せられる期待に応えられるものと思われる。

3. 自由記述「○良いと思われること」の分析

自由記述「○良いと思われること」の分析

分析観点		着目した回答（自由記述）	分析
学生について		<半数（22件）> 「熱心、意欲のある、真面目、誠実、真摯、柔軟」	本学の学生の意欲・態度を評価する意見が多く寄せられていることがわかる。
		<もう半数> 「即戦力がある」「実践力がある」（それぞれ6件、5件）、「協調性・コミュニケーションのある」（4件）、「専門性がある」（4件）、「基礎的な知識、資質がある」（4件）であった。	即戦力がある、実践力がある、という意見があることから、本学の教育が学校現場のニーズに即しているものであることがうかがえる。
大学について	現職教員の学びの場	「現大学院は、学校現場ではなかなか振り返ることができない日頃の取り組みを整理反省し、自らの課題を見出し、今後のキャリアアップに向けての方向性を定めて、2年間じっくりと研修をすることができるところとなっている」 「専門的に学びたいことを学べる機会がある」 「理論と実践の両方を重視した教育をしているところ」 「生涯学習という観点でいつまでも学び続けられる環境があるというのがいい」	現職教員が学ぶことのできる場としての良さを評価する意見が多かった。
		「現場復帰後、学校のリーダーとして活躍してくれる」「教育の基本となる事柄、国内海外の教育事情、今後の教育に関する動向などの最新情報など、在籍している学生だけでなく、現場の教員に対しても幅広くご指導いただけること」	修了後の院生を評価する声、教育内容を評価する声もあった。 本学の重要な使命である現職教員の学びの場としての機能が強く評価されているといえる。
	学部教育	「教育に対して熱意を持って取り組まれている」等 「学校教員としての姿勢やマナーを現場目線で指導、身につけさせているところ」	実習やボランティア等実践的な学習の場を取り入れた教育がなされていることと、教員採用試験対策が充実していることを評価する声が多かった（あわせて23件）。 指導体制については、少人数制で一人一人を大切に丁寧な教育がなされている点を評価する声が多かった（15件）。 本学の学部教育が高く評価されていると考えられる。 少数であるが特徴的な意見として、知識技術のみならず教員として必要な学びがある点、複数免許を取得させている点などがあつた。
地域との連携	「アドバイザー派遣等私たち現場の職員にもご指導いただける機会があることが良い」「公立学校と連携した取組（が良い）」「学園都市化構想の取り組みはたいへんよい」		学校や教員への支援を評価する意見（18件）があつた。
		「県教委と連携したリーダーの育成」「本県の教育の現状に即した教育ニーズに対応できる教員の育成ができる」「教育実習に関する学生への指導や、公立学校との連携を重視され丁寧に説明いただける」「現場の学校教職員の声を取り入れて、それを教育に反映している」「現場と連携をとりながら、教育実践に役立つ教育がなされている」	大学院教育・学部教育が連携に基づいたものとなっていると評価する意見（29件）があつた。
	「実習生の配置について、配慮いただけること」等	少数意見であるが、大学からの一方的なニーズだけではなくしっかりと連携をしながら教育を進めていることを評価する意見もあった。 上述した現職教員の学びの場になっていること、学部生の教育のことも含め、地域に密着した教育や支援が行われていることが高く評価されていることがわかる。	

3. 自由記述「●改善や要望点」の分析

分析観点		特に着目した回答（自由記述）	分析
(1) 育成を期待する資質・能力や知識・技能	レジリエンス	「多様な児童生徒や保護者と誠実に向き合いがんばることができる心の強さを育てることが今後とも重要であるように感じる」「新卒で即採用になった先生でも、初年度で退職してしまう先生が最近多いように思われる」	育成を期待する資質・能力や知識・技能に関する意見が最も多く、そのなかでも粘り強さや精神的な強さ、柔軟性の育成を期待する声が多かった（21件）。これは、コミュニケーション力や協働力の育成を期待する意見（7件）、子どもや保護者と関わりながら、同僚や管理職とコミュニケーションをとって問題解決する能力の育成への期待と強く関連していると考えられる。
		「至れり尽くせりすぎるところもあり、その結果、耐性が無さすぎる卒業生が見受けられる」「少しのことでへこたれない指導してもすぐに口答えをしない素直で前向きな人材を育てる」	それぞれ1件ずつであるが、本学の教育や学生の現状に触れている意見があった。
	コミュニケーション力	「保護者の強い要求や子どもの予期せぬ反抗場面等において、先輩の教員や管理職に相談しながら、押しやり引いたりして、粘り強く関係を改善していくコミュニケーション力が不可欠である」 「教科の指導力」「教科の専門性の向上」「学級経営力、協同性、保護者対応の基礎を身に付けさせてほしい」「保護者や外部（不当要求）対応のロールプレイをしっかりとやっておくと、現場でまごつく確率がへると思う」	この「コミュニケーションを図りながら、粘り強く問題解決する精神的な強さ」への期待は、高い責任感や使命感、倫理観、子供への愛情等を期待する意見（9件）や、社会人としての常識や幅広い人間性、教養を期待する意見（12件）とも関連しているだろう。知識・技能といった部分での教師としての専門性だけではない、人として人と関わり、人を育てるという教師にとって必要な資質の育成を期待する声と解釈できる。それは、教育内容に対する要望（15件）があることにも裏付けられる。
	教育内容	「困難な状況にある児童の指導」「ICT、特別支援、外国語等、時代のニーズに対応した教育を」「国際的な視点にたっている子供たちに必要なことは何か、議論や研究を進めてほしい」「新たな学びを職場内に発信する力量」	現代的な教育課題に対応できる教員の育成に関する意見もあった。さらに、現場や徳島県の教育をリードする人材の育成や、学び続ける教員の育成を期待する声もあった。
	その他	「特別活動について特に学級活動の理論を構築し、学生にその理解を深めさせ、実践的な力を養ってほしい」	以上は、これまでも本学が取り組んできたものではあるが、より一層強化して取り組んでいくことが必要であろう。
(2) 現場との連携		「学校現場に対応が求められる教育課題は、ますます複雑化・多様化しており、もはや学校では対応しきれない」「大学での教育内容をもっと現場にも知らせてほしい」「県西部や県南部との連携・協働にも尽力してほしい」「リーダーとして活躍している卒業生のつながりをフォローする体制が実のあるものとなれば更に良いと思う」等	第2の軸は、現場との連携を期待する意見（19件）である。「良いと思われること」において、現場との連携が取れていることを評価する意見が多かったが、現状から更なる連携を期待する声や、これまで以上に、あるいはこれまでとは違った新たな連携の可能性を示唆する意見もあった。
		「現場にあった指導を」「職場で核となる教員がいなくなることが、実際問題として厳しい」	現場と大学教員との意識のずれを指摘する声や、改善を望む声もあった。
(3) 学部教育	徳島の教員人材育成	「卒業後も徳島に残り、徳島県の教員として活躍できる人材を」等、「学部生の数を増やしてほしい」「もう少し学生の定員を増やして、地元枠を作って欲しい」 「教師の魅力をしっかり伝えてほしい」	第三の軸は、主に学部教育に関わることであるが、地元の教員養成系大学として徳島で教員となる人材の育成を期待する意見である（5件）。そのために、という要望（7件）があった。また、徳島の教員、またそもそも教職を目指す人が増えるようにという意見があった（8件）。
	その他	該当なし	「良いと思われること」において挙げられていたが即戦力のある教員を育成してほしいとする意見（5件）も見られた。
		「採用試験に合格するための専門学校のようなにはなっていない」「専門職学位課程の発展とともに、修士課程で多様に学ぶ機会の確保もお願いしたい」「教職大学院は、多様なコースがあるが、そのコースにとらわれない幅の広い研修を行える部分もあると現場に復帰したときに役立つと思う」「個人的な見解として、教職大学院のカリキュラムは、通常の大学院に比べて自由度が低くなり過ぎていてのではないかという気がする。大人の学びの場なので、制約が多いのであれば、自由度を高めてもよいかも思われる」	改善を求める少数意見があった。
		「文書のURLをクリックするとアンケートに入れるようにしてもらいたい。非常に多忙な現場を無視した一方的なアンケート調査はやめてもらいたい」	本アンケートに対する要望もあった。

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育専門大学であることが魅力です。 ○ 県の教員養成大学としての役割を果たしていると思います。 ○ 良い自然環境の中で教員養成のための教育がなされている。 ○ 教員採用試験対策だけでなく、かつての教育大学や教育学部に比べて、理論ばかりでなく学校現場に必要な力をつけようとしているのがよく伝わってくる。 ○ 教育に対する情熱を持った教員を育ててくれているところ。 ○ スーパールーキー制度を全ての学科に広げた方向に賛同します。 ○ 大学では、学校現場で即活躍できる人材の育成に力を入れてくださっており、大変ありがたい。また、大学院では、現職教員を受け入れ、最新の教育理論やスキルを伝授いただき、修了後の教職生活が更に充実するよう導いてくださり、ありがたい。 ○ これからの教育課題に柔軟に対応出来る教員の育成にご尽力いただきありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。 ○ 実習等に力を入れ、卒業と同時に現場で戦力となる人材を育成している。 ○ 学校現場の声を生かした教育職の人材育成に熱心である。 ○ 教育職になることをゴールに見据えた学部教育がなされていると考えている。 ○ 教員になるため、または教員としての力量アップにつなげるためのより実践的、効果的なカリキュラムののっとり、学生を育成している。 ○ いろんな教科の免許をとることができるのでいいと思いました。 ○ 学校の現場に出たときのギャップを減らすため、学校での体験を段階的に積ませるようプログラムを組んでいるところ。教員としての姿勢やマナーを現場目線で指導、身につけさせているところ。 ○ 教員としての高い専門性と強い使命感を育成する教育が行われている。 ○ 専門的知識だけでなく、学生にとって幅広い学びの場があると思われる。 ○ 理論と実践の往復作用。 ○ 新しいこと（現場での実習の機会を増設）にチャレンジしている。 ○ 専門的な知識の習得についてはよいと思います。 ○ 教育に対する専門的知識を学ぶことができ、教員の資質の向上につながっていると思う。 ○ 変化が激しい時代にあって学校教育に求められる様々な課題に対して、これからの時代に適合した専門的かつ最新の情報や技術等を、幅広く身につける場となっている。 ○ 教育の今日的な課題を解決するための専門的知識の向上に力を入れている点。 ○ 教育現場の様々な状況に即した形での教員養成が行われている。 ○ 国の動向を見据えた実践的な教育内容であるところ。 ○ 喫緊の教育課題に対応している。 ○ 学校現場での実習を実施している所。 ○ 学習支援ボランティア等現場経験を積ませようとする方針。 ○ 学校現場に出たときに必要なことを重点的に指導してくれている。 ○ 郷土愛を育む教育活動を展開している。 ○ 鳴門市内の幼稚園において、毎年ふれあい実習を行うことで、就学前教育に今後携わることはないだろうと思う学生さんたちが、就学前の子どもたちに関わり、就学前の子どもたちの生活や成長を知ってもらうのは良いことであると思っています。 ○ 高等学校の教員が小学校に研修に行くことは意義があると感じている。 ○ 専門性に関わる先進的な指導内容や方法を実践的に学べる機会があること。 ○ 学校現場で必要とされる実践力の育成に力を入れている。 ○ 現場に出て役に立つ実践的な教育がなされているところ。 ○ 授業力向上に向けた取組がされていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員養成に特化した大学・大学院をめざしていただきたいと感じます。そのためには、可能な限り教育行政や学校との連携を密にしたカリキュラム編成、加えて大学・大学院の指導者が教員の立場で、学生に指導できる人材を招聘いただきたく思います。 ● 特にはありません。引き続き、次代を担う教員の育成と、教育大学の専門的な知見を生かした学校支援をお願いします。 ● 自分の母校でもあるので、採用試験に合格するための専門学校のようにはなって欲しくないと思っています。 ● まずは教員不足が心配される中、今後とも、学校現場で求められている教員としての資質向上のための取組を続けていただきたい。 ● 教員養成に特化した大学なので、今後いろいろな専門知識を深め、附属幼・小・中等での教育実習経験を積んで、配属された学校で即戦力になるような教員を育ててほしい。 ● 今後教員採用試験の倍率低下により、大学卒業後、即教壇に立つ学生がほとんどとなると思われます。現場で即戦力となれるような実力をつけていただけるとありがたいです。 ● 難しいところもあるとは思いますが、学部生・院生とも、少しでも学校現場の感覚との接点のある教育・研究となるよう、よろしくお願したい。 ● 大量退職の時代を迎え、即戦力として現場で活躍できる教員の養成をお願いしたい。 ● 大学では専門的知識だけでなく、授業実践（演習）を多くとって、即戦力のある学生を育ててほしい。強い精神面も培っていただけるとありがたい。 ● 数年後には若年層の割合が増えるので、即戦力の人材育成をめざすカリキュラムを続けて強化していただきたいです。 ● 今現在、現場は若い教員の割合が高く、現場に出るとすぐに即戦力として求められる。大変な職業であるが、教員としてのやりがいや教職の素晴らしさを教えていただき、優秀な人材を教育現場に送り出していただけたらと思います。 ● 専門性だけでなく、現在の教育課題や教科横断的な視点での学びと実践を深めてほしい。 ● 学校現場で課題解決的に学ぶ場を増やしてほしい。 ● 個人的な見解として、教職大学院のカリキュラムは、通常の大学院に比べて自由度が低くなり過ぎていてはないかという気がする。大人の学びの場なので、制約が多いのであれば、自由度を高めてもよいかもしれない。 ● 教職大学院は、多様なコースがあるが、そのコースにとらわれない幅の広い研修を行える部分もあると現場に復帰したときに役立つと思う。 ● 新たな学びを職場内に発信する力量を身に付ける。 ● これからも10～20年先（今の学生が教師として大半を過ごすであろう）をみこした、より充実した教育をよろしくお願いたします。 ● よりグローバルな教育が展開できるカリキュラムの構築。 ● 国際的な視点にたっている子供たちに必要なことは何か、議論や研究を進めてほしい。 ● ICT、特別支援、外国語等、時代のニーズに対応した教育をお願いします。 ● 教員としての資質や能力を養成する学部である以上、人との協調性を育てたり伸ばすことは欠かすことができないと考える。卒業後、教員として生活するためには、是非そういった力も磨ける課程や講座的なものがあれば良いと思います。 ● 鳴門教育大学・大学院と現場で研修や実習など、何らかの形で交流等があればよいと思う。 ● 現場にあった指導を！ ● 基本は附属校での実習なのですが、県内出身者であれば、出身小・中での実習も少しばかり(2週間程度)入れてもいいのかもしれないなと思います。 ● 若い先生が現場で多くなってきました。教育現場で活躍している先生方が、大学や大学院で学んだことを思う存分発揮できるよう御指導を為てあげてください。

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的な教育を行っているように感じている。 ○ 現場教育に特化した教育ができるところ。 ○ 実践的な学習や活動を取り入れているところがよい。 ○ 学校現場に学生を出し、体験的に教職について学ばせ、同時に、育成している点が良い。 ○ 教育現場での実践に重きを置いていること。 ○ 学校現場に入っただけの実習がとて役に立つと思います。 ○ 理論と実践の両方を重視した教育をしているところ。 ○ 現場の学校教職員の声を取り入れて、それを教育に反映している。 ○ 広い教育内容で、教育現場ですぐに実践に活かすことができる教育を為てくださっていることに感謝いたします。 ○ 学校現場の教育と学術の結びつきを意識した教育を展開してくれている。 ○ 現場と連携をとりながら、教育実践に役立つ教育がなされている。 ○ 教科等の専門性を身につけるとともに、生徒指導や保護者対応についても具体的なケースを想定しての演習が可能である。 ○ 教科指導をしっかりとしている。 ○ 教員としての心構え等を指導していただいている。 ○ 学校現場の実務内容に沿った教育・指導が行われている。 ○ 現職教職員が学びやすいように、土日でも大学を開けて指導して下さるところ、本当に助かっています。 ○ 教員養成の専門的な大学であるため、教員としてスタートする前に様々な校種で実習を十分に行ううえに、その経験を元に教員としてスタートを切ることができる。また、指導する側の先生方も素晴らしい。 ○ 教育実習に関する学生への指導や、公立学校との連携を重視され丁寧に説明いただける点。 ○ 教員が学生に丁寧に指導していただき、小規模大学の良さが出ているところ。 ○ 少人数での授業等なので、友達関係が良好なのだと感じる。 ○ 教育実践の場が多い。教育就職率が全国一。少人数制。特色ある図書館が多々ある。 ○ 学生一人ひとりに、丁寧な指導・ケアを行っていると感じています。 ○ 少人数で学生一人一人に手厚い支援がなされているところ。 ○ 学生に対して大変熱心に指導されていることを感じています。そのことが教師を目指す学生の熱意であったり、教員採用率が高かったりすることにつながっていると思います。大学教職院で現場教師が学ぶことができるのも大変魅力です。 ○ 学生一人ひとりを大切に細やかな助言等によって成果をあげているところ。 ○ 学生一人当たりの教員が手厚い。 ○ 少人数での教育。 ○ 学生数が少なく、教官の方々が、きめ細やかに指導され優秀な人材が輩出されている。 ○ 人的環境が整い、少人数による教員養成の充実が図られている。 ○ 学生一人ひとりを大切に、丁寧に指導されていると感じている。 ○ 教育に対する熱意を感じます。また、学生に対する愛情といいますか、育てていこうという雰囲気を感じます。 ○ 少人数、教員OBによる指導。 ○ 現場を経験している教員や退職された校長先生方もおいでるはずなので、学校現場でどのような教員が必要とされているか細部まで学習できる環境が整っている。 ○ 他校との情報交換で、貴大学、大学院出身教員の頑張りをよく聞きます。各学生に対してきめ細かく対応され、教員としての資質向上に努められている様子がよくわかり、大変好印象を持っています。これからも地域密着の大学として、徳島県教員育成をよろしく願いいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 我慢強い人間。1人で1年ぐらい海外を放浪して帰って来るような、バイタリティー溢れる人間を教育現場に送りだしてほしい。 ● すばらしい教育をされていると思います。学校以外の世界を知らない人もいるため、多様な経験をできる環境のもとで、学生生活を送ることができれば、人間的に幅のある教員が育成されると思います。 ● 広い視野を持つ教員を育てていただきたい。 ● 大学や大学院だけでは厳しいこととは思いますが、教師としての使命感をしっかりと持った人材の育成にご尽力ください。 ● 大学院卒ストレート教員採用試験合格者が学んだ知識を絶対だと考えて柔軟性に欠けること。 ● 教育者としてのさらに強い自覚を期待したい。 ● 教員になる強い覚悟と打たれ強い精神力のある先生を期待しています。 ● 貴学のみならず、教員をめざす学生全般に、教員になるという強い意志と少々のことには負けない精神力を育成することが必要だと思う。 ● 新卒教員の精神面が弱すぎる。授業力、学級経営力、協同性、保護者対応の基礎を身に付けさせてほしい。 ● 専門分野だけでなく、教員として必要な資質・能力を幅広く伸ばしていただきたい。 ● 新卒で即採用になった先生でも、初年度で退職してしまう先生が最近多いように思われる。実際に現場に立った時に様々な困難に立ち向かえるメンタルを養ってほしい。 ● 至れり尽くせりすぎるところもあり、その結果、耐性が無すぎる卒業生が見受けられる。生徒指導、保護者対応をロールプレイ等を通してされていると思うが、もっとしっかり学んで欲しい。教育実習ではまかなえ無い部分なので。 ● 主体的に取り組む力。 ● 授業力だけでなく、現教員の授業以外の仕事の重要性を理解する。 ● 全体的な傾向がよく分からないので、改善すべき点になるかどうか分からないが、組織的に対応していく力の育成や、すぐにくじけないメンタルの強さを培うことが必要だと考える。 ● 責任感、協調性、教師としての使命感を持った学生を育ててほしい。 ● 少々の困難にも立ち向かっていく力をつけてもらいたい。 ● 幅広い教養、社会人としての常識。 ● 単科大学かつ教育系の為か、学部生が均質で小粒な感じがする。型破りで大きな夢をもつ学生が少数でも出て来るような取組が出来ないか。 ● 幅広い教養を含め、人間性を高める大学教育を展開してほしい。 ● 教員としての自覚とそれ以前の社会人としての自覚を促す教育。 ● 教員になることが最終目標でなく、ライフステージに応じた目標に基づく働き方ができるような、生涯を通じて主体的・自律的に働くことができる教員の育成。 ● 教員であるとともに人としての魅力あふれる人材育成に取り組んでいただきたいと思います。 ● 現場に出たときの社会人としての常識を身に付けさせてほしい。（個人差はあるが...） ● 広い視野を持った豊かな人間性を伸ばして欲しい。 ● 一方で、若い教員に増えているのが精神的な弱さや他者に共感する力かなと考えます。 ● 本県の学校教育をリードする意識を持った教員の育成を今後ともよろしく願います。 ● 徳島県の教育をリードする人材の育成に努めて欲しいと思います。 ● 大学院では、高い専門性を持って、現場をリードするくらいの人材を育ててほしい。 ● 教員採用試験には強いが、実践に弱い。 ● コミュニケーション能力の向上がカギになると思います。

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
教育・研究	<p>○教員の基礎的な資質は十分持ち合わせている。</p> <p>○真面目です。教育に対して真摯に受け止めてくれています。</p> <p>○教育に対し誠実に向き合おうとする姿勢。</p> <p>○教育者として頑張ろうとする意欲がある。</p> <p>○熱心に取り組む意欲が育っているように感じます。</p> <p>○教員としての資質・能力を身に付けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○自校に勤務している、貴大学の卒業生は、人間的にも、教員としても優れている。本人の資質もあるが、貴大学の教育の賜物でもあると考える。</p> <p>○貴大学や大学院を卒業した学生は、まじめで真摯に教育活動に携わっている者が多いと感じている。大学等で履修した内容をしっかりと教えるスキルも身につけていると思う。</p> <p>○教員としての資質・能力をしっかりと育成されていると思われる。学習等のサポーターとして現場で活動する機会を設けていただいているのが実践的でよいと思います。</p> <p>○基礎となる知識がしっかりしている。</p> <p>○教員になりたいという強い意思をもった学生が多いのではないかと思います。教育の内容については分かりません。</p> <p>○地元教員育成をリードしている。真面目に取り組む人材を多く育てていると思う。</p> <p>○教育に対して熱意を持って取り組まれている。</p> <p>○教員を目指す学生が集まっており、真面目である。</p> <p>○真面目に取り組む姿勢は素晴らしい。</p> <p>○教員になりたいと純粋に思っている学生が多い。</p> <p>○鳴門教育大学出身の方は、教職の基礎がしっかり身につけており、自身の研究教科等にも高い知見をお持ちです。大学院でさらに識見を深められ、徳島県の教育をリードしてくれていると思います。</p> <p>○熱心である。</p> <p>○鳴門教育大学で学んだ学生の多くは、教員を目指しており、教職を断念したり、挫折したりする学生が少ないように思う。学生の意欲を損ないような努力をしていると思う。</p> <p>○著名で力量ある先生方が多く、学生・院生も大変まじめに取り組んでいる印象があります。直接深いかわりがある教員の中に5年以内の学部卒生はいませんが、もう少し前に学部を卒業した若手教員が本校にも数名います。全員大変力量があり、若手の中心的存在として活躍しています。大学での学びの成果だと思えます。</p> <p>○学校で勤務する時に必要な知識、心得、指導技術、事務処理能力等をバランス良く身に付けているところ。</p> <p>○学校の中核・リーダーとして、これからの小学校・中学校教育を担う資質や能力・対応力などを持った人材を現場に送り出してくれている。</p> <p>○子供たちの教育に真面目・熱心に取り組もうとする人材を教育しているところ。</p> <p>○使命感を持って頑張る教員を育成している。</p> <p>○将来性のある優秀な教員が育っている。</p> <p>○真面目に教育に取り組む姿勢。</p> <p>○特にフィールドワークで来てくれている大学院生は、どなたも誠実で今学校のためにできることは何かをよく考えて行動できている。</p> <p>○現場復帰後、学校のリーダーとして活躍してくれる。</p> <p>○一人一人を大切にされた教育を行っていること。</p> <p>○児童生徒の多様な見方ができる方の割合が多くなってきたように思う。</p> <p>○全般に誠実で、子どもに真摯に向き合う、能力の高い教員を送り出している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●現場に出て多くの児童生徒と関わり、他の教職員と関係を持つ中で、多くの卒業生は協調性を持って協働できる者が多いが、一部の卒業生については、同僚や児童生徒とコミュニケーションがうまくとれない者や、実際の教員としての生活の中での学びが、うまくすすまない者もみられる。 ●専門性の向上も大事ですが、人が人を育てる上で、何よりも子どもたちが大切だと、無償の愛情を持つことが最低限必要だと思います。そして視野を広く持ち、保護者や同僚はもとより、外部の関係機関とも連携協力できるコミュニケーション能力も学校現場では必要になってくると思います。 ●論理的に考え、伝えることができる教員が多いが、保護者の強い要求や子どもの予期せぬ反抗場面等において、先輩の教員や管理職に相談しながら、押し引き引いたりして、粘り強く関係を改善していくコミュニケーション力が不可欠である。ぜひ、重点的な育成をお願いしたい。 ●学生個人の資質に関わる事ではありますが、希に社会人としての振る舞いや、児童生徒や教職員とのコミュニケーションに課題がある学生がおり、そのような学生が教育実習をしたり、採用試験を受けたりする場合は、通常より学生との関わり合いの強いゼミの先生などの個別の継続した指導が必要と考えます。 ●実習生の実習中のコミュニケーション力・謙虚な姿勢をもう少し育ててほしいと思う。 ●理不尽な要求をしてくる保護者対応等についても力を付けて現場へ出ると、本人も余裕がもてるのではと思われる。 ●まじめで熱心な教員が育っている。反面、打たれ弱く、学級経営や保護者対応で課題を抱える卒業生が多い。多様な児童・保護者に対応できるたくましさや協働力を培ってほしい。 ●以前のように担任、学年団での対応ではなく、学校として対応していく事案が多くなっています。教職員一人ひとりが、学校経営に参画していくという意識を学生の時から持たせてもらえばと思います。 ●教育は、一人ではできません。難題と遭遇した時に、周りの人に進んで相談しようとする気持ちをもち実行できるような人を育ててほしいと思います。（報告・連絡・相談） ●少しのことでへこたれない、指導してもすぐに口答えをしない素直で前向きな人材を育てる。 ●幅広い専門性、コミュニケーション能力、などの優れた人材を要望します。 ●I T C等の課題に対応できる力も必要かと思いますが、泥臭い人間関係（保護者・同僚）をしっかりと結んで、トラブルを解決する力を育成することが大切ではないでしょうか。 ●保護者や外部（不当要求）対応のロールプレイをしっかりとやっておくと、現場でまごつく確率がへると思う。 ●私の町の小中学校で勤めた先生方は「地域や保護者にとっても大事にもらった。」「何年かしたらぜひもう一度働きたい」と言ってくれる。少し自信をなくしかけた先生が「先生ってやっぱりいいもんだな」と元気を取り戻してくれる。そんな「先生を育てる町」でありたいといつも考えている。鳴門教育大学・大学院もそんな存在であってほしいと思う。 ●困難な状況にある児童の指導。 ●学習に対して消極的な生徒の指導。 ●多様な児童生徒や保護者と誠実に向き合いがんばることができる心の強さを育てることが今後とも重要であるように感じる。 ●専門性の向上も大事ですが、人が人を育てる上で、何よりも子どもたちが大切だと、無償の愛情を持つことが最低限必要だと思います。そして視野を広く持ち、保護者や同僚はもとより、外部の関係機関とも連携協力できるコミュニケーション能力も学校現場では必要になってくると思います。 ●子どもへの愛情、教育への情熱をもつ教員を養成していただきたい。 ●様々な教育課題に、信念をもって、かつ柔軟に対応できる学生の育成を今後も望む。 ●指導力不足の教員も学んでいる。

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誠実さ。丁寧な指導。協調性。 ○ 現場に出て多くの児童生徒と関わり、他の教職員と関係を持つ中で、多くの卒業生は協調性を持って協働できる者が多いが、一部の卒業生については、同僚や児童生徒とコミュニケーションがうまくとれない者や、実際の教員としての生活の中での学びが、うまくすすまない者もみつけられる。 ○ 大学時代のたてのつながりやよこのつながりが、教育現場でも生かされている。 ○ 教員をめざす上で、基礎学力が身につけている。専門性が高い。先輩、同級、後輩の関係。学生と教員の信頼関係。 ○ 学部生が実習に来たことがあるが、非常に将来が楽しみな人材だった。特別な支援が必要な子供に対して柔軟でポジティブな対応ができる力を持っていた。小学校教諭として合格したが、そのような学生が、今後のダイバーシティとくしまを担ってくれると思うと嬉しくなる。そのような学生を多く育ててほしい。 ○ 私の知っている鳴門教育大学・大学院出身の教員（採用5年以内）は、熱心で一生涯懸命に取り組んでいます。幼児の発達の研修をしている時も、「大学で教えてもらった」という言葉が聞かれます。卒業後も、教授の方と連絡を取ったりして教員になってからも気にかけていただいているようでありがたいです。 ○ 即戦力になっている。 ○ 専門性が高く、学校現場での実践力もしっかりと見についている印象がある。 ○ 専門性を身に付け、現場での実践に生かしている。また人脈を駆使し、校内研修に有名な講師招聘に尽力し、教育の充実に貢献できる。 ○ 即戦力として通用する人材が育ってきている。 ○ 個人差があり一概には言えないとは思いますが、実践力を備えた人材の育成に力を入れているのではないかと思います。貴校で学んだ教員を見ているとそう感じます。新たな教育課題に対し学校に求められることも多岐にわたっています。豊かな発想をもった人材の育成を期待しています。 ○ 学校現場での研修が充実していることから、正規採用後の即戦力としての期待が持てる。 ○ 授業力があり、即戦力になっている。 ○ 学校現場での実践力を身につけていると感じている。大学を卒業後即、教壇に立つ学生も多いと思うので、必要なことであると思う。 ○ 実践的活動を通じた学びが生かされていること。 ○ 少人数指導が行き届いており、即戦力の若手教員が育っていると思う。 ○ 専門性のある優れた教員が少しいる。 ○ 学校現場で大学（院）での学びを発揮している印象を受けています。ICT等を有効に活用できるスキルで、学校現場をさらに活性化してほしいと期待しています。 ○ スーパーキーさんには、力量の高い先生が多い印象がある。 ○ 授業力。 ○ 即、実践に役立つ力を付けている。 ○ 理論と実践の往還により、教師力の向上につながっている。 ○ 教育実習やフィールドワーク、採用試験の対策等で、教師として現場で立つ力を付けてくれている。 ○ 卒業後すぐに採用された先生方を知っているが、現場で指導を受けたことを理解することができ、柔軟に吸収し、素直に自分の力に変えていける方が多いことが素晴らしいと感じている。 ○ 生涯学習という観点でいつまでも学び続けられる環境があるというのがいい。 ○ 教員の現役の時に学ぶことができ、教員としての資質や能力を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科の指導力は絶対に必要。ここがきちんとしていないとまず信頼が得られない。だから学生にははっきり勉強させてほしい。現場でも向上心を持ち子どもとともに学び続ける教師が求められている。さらに、責任感や粘り強さ、高い倫理観や使命感を持つ人間的な魅力にあふれる人材を徳島県教育界に送り込んでほしい。 ● 学校現場での実践力や対応力、行動力を大学で身につけることができる学習の機会を増やす。 ● 大学卒業と同時に正規教員になる学生が増加。教師としての実践力が必要。また、厳しい保護者対応等にも乗り越えていくことのできる強さを育成して欲しい。教師の魅力を伝えて欲しい。 ● 特別活動について特に学級活動の理論を構築し、学生にその理解を深めさせ、実践的な力を養ってほしい。鳴門教育大学出身の教員のほとんどは学級活動が正しく実践できない。 ● 大学教育は年を追うごとに実践力の高い教育が実践されていると思う。 ● また、企業のような研修期間はないので、直ぐに担任として子どもたちを迎え入れ対応できるような実践力や臨機応変に対応できる力が育っていることを望みます。 ● 現状のスケール以上に、未知なる社会を生きるスケールを育成する教育実践を期待いたします。 ● 教科の専門性の向上。 ● これからも、専門性豊かな教員の育成をよろしくお願いします。 ● 今後も専門職としての教員を育てて欲しい。 ● 特別支援の3年コース大学院修了生の教師としての根本的資質改善が必要。採用試験ができて現場では通用していない。 ● 企画力・発信力など学校現場で生かせる教育を今後もお願いします。 ● 教育専門職養成機関としての役割は十分に果たしてくれていると感じています。教育に関する新しい知識や技能等、現職以上に身につけている卒業生は多いと聞いております。 ● 失敗を修正していける人間力を養ってほしい。 ● 学び続ける教員像の確立に尽力をお願いします。 <p>(以上)</p>

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
教育・研究	<p>○大学院は、学校現場ではなかなか振り返ることができない日頃の取り組みを整理・反省し、自らの課題を見出し、今後のキャリアアップに向けての方向性を定めて、2年間じっくりと研修をすることができる場となっている。</p> <p>○自らが必要とする時期に、必要な学びの場を得ることができる。学部生と違い、主体的な学びの場となる。</p> <p>○広い視野で教育の専門性を継続して研究している姿勢。</p> <p>○大学院で、寝食を忘れて学びたいことにどっぷりとつかる時間が貴重であったと思います。</p> <p>○学び続ける場、学び直す場として鳴門教育大学の存在は大きいです。</p> <p>○集中して自分の課題解決ができる。</p> <p>○教師力を高めていきたいという意欲があり、よく努力している。</p> <p>○教員養成大学として多くの教員を輩出したり、大学院で現任教員が研究を深めたり、学び直す機会をもつことができる点。</p> <p>○現職教員等が、教育について落ち着いて研修できる。</p> <p>○現役の教員が、大学院で学ぶことができること。</p> <p>○スキルアップを望む教員が、伸び伸びと自分のしたい研究に取り組める環境。</p> <p>○専門的に学びたいことを学べる機会がある。</p> <p>○自己を磨くよい機会であると思われる。</p> <p>○現場の教員がもう一度深く学びたいと考えたときに、学べる環境があること。</p> <p>○教職大学院は教職員の力量アップに貢献していると思う。また、県内の小中高校との連携もよく図られていると思う。</p> <p>○大学院は、ある程度現場で経験を積み重ねた人がその中で感じた課題を学びに行くので、非常に意識が高いように思われる。そういう意欲のある先生を受け入れていただけることはとてもありがたい。現場に復帰してからも中心となって活躍していただける方が多い。</p>	<p>●改善すべき点又は要望</p>
施設・設備・環境	<p>該当なし</p>	<p>該当なし</p>
学生支援	<p>○自ら学ぶ意欲のあるものについては、大変自由で学び易い環境である。特に図書館が充実しているのが素晴らしい。</p> <p>○採用試験対策をしっかりしている。</p> <p>○採用試験や面接に対するアドバイス等もきめ細かに指導していただけると聞いている。</p> <p>○採用審査の合格率が高く、学生に寄り添った教育がなされていると認識している。</p> <p>○教員採用の実績を伸ばしている。</p> <p>○採用試験まで指導してくれており、教員を目指す学生にとって最適な大学だと思います。</p> <p>○教員採用試験対策に熱心に取り組んでいる。教育実習への配慮が行き届いている。</p> <p>○採用試験対策。充実した教育実習。</p> <p>○地方にあるが、教員就職率がよい。</p> <p>○就職支援についても、現場経験者のOBが配置され熱心に指導されている様子がわかる。また、卒業者とも連絡を取りながら就職支援をしているのが素晴らしい。</p> <p>○徳島県の学校現場で、鳴門教育大学を卒業した先生方がリーダーとなって活躍している方がたくさんいる。そのつながりをフォローする体制が、実のあるものとなれば更に良いと思う。</p> <p>○大学が卒業後もきめ細やかなフォローをしてくれていることが、現場に出ても大きな支えとなっているように思う。</p>	<p>● 大学でのクラブ活動を、もう少し充実していただきたい。何か一つ、技術的指導ができる種目があれば、高校現場としては有難い。</p>

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
学生受入	○教育大学なので、将来教員を旨ずす学生が学んでいるはず。	該当なし
その他	<p>○教育現場に先生方が出向き、ご自身も学び、かつ広く指導をしていただいているところ。</p> <p>○園内研修などのときに、実際に園の方に来てくださり、熱心に指導していただけることが、とても有難いです。</p> <p>○現場の立場から、とても頼りになる講師ばかりで、講師招聘に快く応じてもらっている。</p> <p>○徳島県の教員の質の向上の為に、職員派遣などをしてくださり、現場としては学びを深められる機会が増えています。ありがとうございます。</p> <p>○教育大学としての使命や役割を十分に担っている。研修会等で講演会を快く引き受けてくださる。</p> <p>○現場に足を運んでくださり、園内研修などで指導していただいたり、快く講演していただいたりするので、大変勉強になり学ばせていただいています。</p> <p>○講師の先生方が素晴らしい。</p> <p>○教育の基本となる事柄、国内・海外の教育事情、今後の教育に関する動向などの最新情報など、在籍している学生だけでなく、現場の教員に対しても幅広くご指導いただけること。</p> <p>○アドバイザー派遣等私たち現場の職員にもご指導いただける機会があることが良い。</p> <p>○地元の大学・大学院なので、徳島の教育に沿った教育を学ぶことができ、実践につながりやすい。</p> <p>○本県の教員育成に関する貢献に対して、深く感謝しております。</p> <p>○本県の教育の現状に即した教育ニーズに対応できる教員の育成ができる。</p> <p>○地元の教育者を育成すること。</p> <p>○教育実習も含め、地域と連携した教育を行っているところ。</p> <p>○地域に根付き、計画的な育成が展開されている。</p> <p>○地域と協働して教員養成にあたっていただいているところが有難いと思います。</p> <p>○学園都市化構想の取り組みはたいへんよい。</p> <p>○地域の实情に根ざした大学、大学院。地元貢献できる。共同で研究ができる。</p> <p>○現場との連携を大切にしている。</p> <p>○公立学校と連携した取組。</p> <p>○教育委員会と密接な連携を持っている。</p> <p>○鳴門市の教員には大変手厚くフォローしてくださり助かりました。現場と連携できている印象です。</p> <p>○地元教育委員会・学校との連携が図れていること。</p> <p>○学校現場との連携が取りやすく、気軽に学べる環境がある大学・大学院であると感じます。</p> <p>○現場の教員との交流があり、教員の全体像を把握しやすい。</p> <p>○現場との協力体制を作ろうとくださっているところはありがたいと思います。</p> <p>○大学院では、専門性が高い実践的な研究が進められている。</p> <p>○実習生の配置について、配慮いただけること。</p> <p>○教育の果たすべき役割を多面的に捉え、全国の大学等との連携による研修が盛んである。</p> <p>○自身のキャリア形成に大いに役立つ。</p> <p>○新しい知識を得られる。</p> <p>○副免許等を所持させているのはすごいですね。</p> <p>○現場を主体とした研究をしている。</p> <p>○自分の選んだことを時間を気にせず研究できる。</p> <p>○県教委と連携したリーダーの育成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●あまり、大学の様子を知らないのが現状なので、教授の出張講義や授業を現場で実施できる機会があるとよいと思います。こちらからは、勤務時間などの関係で、なかなか研修のために出向く事は難しいです。 ●大学教員が現場に来て、どんどんノウハウを指導してほしい。 ●学部生の定員をもっと増やすべきです。将来有望な教員のたまごが、県外に流出しています。かわりに県内の私立大学生が増えています。徳島大学教育学部のように増やしてください。大学院に力を入れて学部がおろそかになっていないでしょうか。 ●もう少し学生の定員を増やして、地元枠を作って欲しい。 ●定員数が、もう少しだけ増えたらいいかなと思う。 ●もっと沢山の学生を受け入れて、さまざまな人間性に触れ合って、互いに高め合う学生生活をおくれるようにした方がいいと思います。 ●教員をめず学部生の割合をもっと高めてほしいと思います。本市において、学生、院生の受け入れや現職教員の派遣など、そのための協力は惜しみません。 ●単科で大学で、学生数も少ないので学生の層が画一化されやすいと考えられるので、この点を克服できるような取組を検討してほしい。 ●定員を若干増やして頂きたい。 ●学部生の数を増やしてほしい。毎年100名前後しかとらないのは、県外への学生流出を招いている。県内に残る私立大学卒業生が増え、質の低下を招いている。以前の徳島大学教育学部のように定数を増やしてほしい。そんな少数で教員採用一位とか何の値打ちがあると言うのでしょうか。 ●徳島県内で教職につく希望のある方を増やしてほしい。 ●県外出身の学生さんが多くなっているようですが、是非徳島県での採用審査受審を勤めて欲しいと思います。力量ある若手教員が増えることを願っています。 ●卒業後も徳島に残り、徳島県の教員として活躍できる人材を。 ●徳島の教育を担う人材の養成をこれからもよろしく願います。 ●徳島県の教員になる（徳島県の教員採用審査を受審する）学生が、もっと増えてほしい。 ●綿密な教育課程の下、教員育成に力を入れて頂き、ありがとうございます。卒業生が一人でも多く徳島県教員になれるよう、激励や進路指導をお願いいたします。 ●様々な統計での教職に就いた人数は、正規採用がわかる方法が良いと思われる。また、教職現場で、臨時等の教員が非常に不足して困っている状況がある。大学としてもこの点を見据えて改善を行ってほしい。 ●教師の魅力をしっかりと伝えてほしい。 ●教員としての使命感と責任感を育成することは重要だが、それ以上に、目標をもって教員の道をめざせるよう教育の楽しさを伝えてほしい。 ●学生さんと院生さんに、教職への魅力と子どもの尊厳を、深い理解をもって実感できるような機会をつくってあげてください。 ●教員を目指す学生が減少しているので、教職のよさを講義等で伝えてほしい。 ●入学してきた学生に対し教員を志望するよう、教職の魅力、やりがい等を講義や実習の中で伝えていてもらいたい。 ●大学生の時点で、教員の魅力を伝え、他の企業に人材が流れないように、お願いしたいです。 ●教職をめず人が増えるように願います。 ●教職教育のリーダー大学として、今後とも教育による地域貢献を期待します。 ●県西部や県南部との連携・協働にも尽力してほしい。

3. 自由記述【回答】

カテゴリ	○良いと思われること	●改善すべき点又は要望
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● 学校との連携をさらに強化していただきたい。 ● 教育現場と大学の連携機関としての機能に期待したいです。 ● 学校との連携の機会がもう少し欲しいです。 ● 学校現場に対応が求められる教育課題は、ますます複雑化・多様化しており、もはや学校では対応しきれない。そこで、学校だけでは対応が困難な課題に対して、専門的な立場からの指導・助言をしていただけるよう、開放的な講座開設や情報の提供、日常的な人的交流を図るなど、学校現場の機能を強化する機関として、より柔軟な連携体制を構築していただきたい。 ● 現場にも教育内容がより具体的に伝わるとありがたいです。 ● 職場で核となる教員がいなくなることが、実際問題として厳しい。 ● 教育現場の現状把握。 ● 現場を知らない教授は不要かもしれません。また、特任などの退職校長も、最新の授業についていける先生が何人いるのかなど。実習を受け入れて大学の授業の様子を聞いてみると、とてもじゃないけど、現場とずれてる気がしました。そういう意味では、教員養成のありかたを再検討してほしいです。四国大の卒業生の方が評価が高い現実を受け止めてください。 ● 大学や大学院の取り組みや成果を現場の教職員にお知らせできるものがあると良いかと思いません。 ● 徳島県の学校現場で、鳴門教育大学を卒業した先生方がリーダーとなって活躍している方がたくさんいる。そのつながりをフォローする体制が、実のあるものとなれば更に良いと思う。 ● 合格率だけがすべてではないので、じっくりと育成にあたってください。 ● 学んだことを学校現場において実践できるよう今後もご指導をお願いします。 ● 貴校出身者ということではなく、ここ数年で退職してしまった若い教員の例を聞きましたので、書かせていただきました。 ● 教育界の新たな改善に一太刀欲しいです。若い力に期待します。 ● 地元の教員養成大学としてこれからも県下はもとより全国をリードして行ってほしい。 ● 専門職学位課程の発展とともに、修士課程で多様に学ぶ機会の確保もお願いしたいです。 ● コロナ禍で、学生ボランティアの方に来ていただけないが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、学生の方にボランティアに来ていただきたい。そのために、大学側から積極的にボランティアの募集をしていただきたい。 ● 文書の URL をクリックするとアンケートに入れるようにしてもらいたい。非常に多忙な現場を無視した一方的なアンケート調査はやめてもらいたい。 <p>(以上)</p>